

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	キャリアガイダンス（688）				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	大内 香那子				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授 業 形 態	演 習	教 室	ライブ配信	補 助 教 員	各担任	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 材	仕事力を身に付ける２０のステップ					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1回～3回 人生の3つの要素（人間関係・財産・仕事） 4～6回 社会人としての基礎マナー 7～9回 ロジカルライティング基礎 10～12回 プレゼンテーション基礎 13回～15回 他者から見た自分を知る 16回 サンクスドリル基礎学力テスト 【後期】 1～3回 過去の行動から見た自分を知る 4～6回 社会が求める人材像 7～9回 社会人インタビュー、社会人トークセッション 10～12回 キャリアデザインマップをつくる 13回～15回 まとめプレゼン 16回 サンクスドリル基礎学力テスト		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	プログラミング技法Ⅱ（725）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	森 久、北畑 良祐				実 務 経 験 内 容	
					[北畑] システムエンジニアとして、システム開発、維持・運用の業務に携わった。	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	6	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、1年時に続いてJava（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Javaを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身に付け、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 材	スッキリわかるJava入門 第3版 オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE スピードマスター問題集 試験番号1Z0-818対応 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～2回 オブジェクト指向の導入 3～4回 インスタンスとクラス、演習 5～8回 さまざまなクラス機構、演習 9～12回 継承、演習 13～17回 高度な継承、演習 18～21回 多態性、演習 22～25回 カプセル化、演習 26～35回 プログラム作成演習、演習 【後期】 36～41回 Javaを支えるクラス群の理解、演習 42～47回 文字列と日付の扱い、演習 48～53回 コレクション、演習 54～59回 例外、演習 60～65回 ファイル読み書き、DB操作、演習 66～71回 プログラム作成演習、演習	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	システムデザインⅡ（844）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荒木 俊行				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
1年次に学んだ基礎知識を基に、模擬的に用意した顧客から依頼の案件を元に、実際にシステムの設計および各種工程で作成するドキュメント作成を行う。要求定義、業務改善・システム化を擬似的に実施する。						
授 業 形 態	実 習	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
資料を基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。						
教 科 書 材	資料を適宜使用 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～2回 要求定義書作成方法について 3～4回 要求定義書作成演習 5～6回 機能一覧表作成方法について 7～8回 機能一覧表作成演習 9～10回 入出力一覧表について 11～12回 入出力一覧表作成演習 13～14回 データ定義書作成方法について 15～16回 演習 【後期】 17～18回 データ定義書作成演習 19～20回 プログラム構成図作成方法について 21～22回 プログラム構成図作成演習 23～24回 画面定義書作成方法について 25～26回 画面定義書作成演習 27～32回 総合演習	

評価コード	13
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	データベースⅡ（729）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	田 中 実				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
世界的にシェアの高いORACLEデータベースの活用を学び、システムエンジニアとしてのスキルを向上させる。スキル向上と同時に、認定資格であるORACLE MASTER Bronze DBAの取得を目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
テキストを使用し座学形式で実施。貸与している各自のノートパソコンを使い、ORACLEの各種ツールを使用しながら、オラクルデータベースを活用できるシステムエンジニアとしてのスキルを向上させる。						
教 科 書 教 材	BronzeDBA Oracle Database Fundamentals 完全詳解＋精選問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 2回 Oracleデータベース管理の概要 3～ 4回 Oracleソフトウェアのインストールとデータベースの作成 5～ 6回 Oracle Enterprise Manager Database ExpressおよびSQL管理ツールの使用 7～10回 Oracle Network環境の構築 11～14回 Oracleインスタンスの管理 15～18回 データベース記憶域構造の管理 19～22回 ユーザーおよびセキュリティの管理 23～26回 スキーマオブジェクトの管理 27～28回 データベースの監視およびアドバイザの使用 29～30回 バックアップ・リカバリの概要と可用性を高める構成 31～32回 模擬問題		

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	テクニカルスキル I (891)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	鳥居 茂希				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
ネットワークはITインフラの基盤でありIT技術者には必須の技術である。より実践的なスキルを身に付けるため、Ciscoより提供されたシミュレータソフトで、デバイス（ルータ、スイッチ）設定の実習、実技試験を必要に応じて実施する。授業はCCNA (Cisco技術者認定試験)合格カリキュラムに準じた内容で、2年間をかけて順序良く授業を進める。進行状況に合わせてルータ、スイッチの設定等の実技も習得し、CCNA合格も目指す。						
授 業 形 態	講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにシミュレータを使った実習も行う。実習で使う題材は、学生イントラネットにあるものを利用する。実習は授業時間内に実施するスキル試験により評価を行う。評価は完成度とする。						
教 科 書 材	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(毎授業で使用) 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 2回 環境設定/授業説明 3～ 4回 ネットワークの基礎(1年次の復習) 5～10回 Ciscoルータの初期設定 11～32回 ルータの機能とルーティング 【後期】 33～42回 OSPF 43～52回 ACL 53～62回 NAT・DHCP・DNS 63～64回 総合演習		

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	ゼミナールⅡ（937）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荻沼 隆				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次	
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来Webアプリケーションエンジニアとして活躍できるスキルを身に付ける。PHPはWebアプリケーションに特化したプログラミング言語である。また、データベースとの連携も可能で、動的なホームページ作成も可能である。同時にセキュリティについても考察し、安全なwebサイト構築が可能な技術を習得する。						
授 業 形 態	実 習	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
テキストおよびノートパソコンを使用し、Webアプリケーションの制作が可能なプログラミング言語であるPHPを用い、プログラム作成を中心に授業を実施する。						
教 科 書 教 材	スラスラわかる PHP 第2版 貸与ノート型パソコン(授業内で適宜使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【後期】 1回 PHPとは（環境設定） 2回 PHPプログラミングとC言語との文法の違い（基本文法） 3～6回 配列 7～8回 関数 9～10回 ファイル操作 11～12回 フォームとの連携 13～20回 データベースとの連携 21～26回 セッション管理(クッキー) 27～32回 セキュリティ		

評価コード	13	
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名		システム運用管理（735）				教 科 区 分	専門教育科目
						必修 / 選択	必 修
担 当 教 員		土屋 凌介				実 務 経 験 内 容	
						〔土屋〕エンジニアとして、大学のネット出願、会計の基幹システムの設計・開発を担当。学内ではプログラミングに関する授業などを担当。その際の知識・経験を活かして講義をする。	
週 授 業 時 間 数		1年次	2年次	3年次	4年次		
		-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標							
将来のITエンジニアとして、Linuxオペレーションの知識は必須である。本授業では、Linuxの基本知識、コマンドラインオペレーション、特権アカウントでの簡単な管理オペレーションの学習を行う。そしてWebサーバやDNSサーバなどの構築を通じて、Linuxに関する知識を深めていく。また、これらの知識の証明として、各種資格試験（LinuC101、LPIC101、Linux Essentials）への合格も目指す。							
授 業 形 態		講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、ノート型パソコンを使った実習を行う。実習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、学生イントラネットにあるものを利用する。理解を深めるため、定期的に演習問題を実施し、提出とする。提出方法については、その都度説明する。							
教 科 書 教 材		1週間でLPICの基礎が学べる本 第3版、中島能和、インプレス 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 3回 授業ガイダンス、Linux学習環境の構築、Linuxとオープンソース 4～ 6回 Linuxの基本操作、ファイルの表示とディレクトリ移動 7～ 9回 ファイルとディレクトリの基本操作、圧縮と展開 10～12回 ユーザーとグループの管理 13～15回 所有者と所有グループ、パーミッションの設定 16～18回 viエディタによる基本的な編集操作、保存と終了、便利な機能 19～21回 シェルの役割と基本操作、便利な機能、シェル変数と環境変数 22～24回 シェルスクリプトの基本、引数と終了ステータス 25～27回 ファイルの検索、テキストファイル内の検索と便利なコマンド 28～30回 パッケージ管理 31～32回 まとめ、定期試験について 【後期】 33～35回 授業ガイダンス、ハードウェアとLinux、ファイルシステム 36～38回 マウントとアンマウント、ディレクトリの配置と役割 39～41回 プロセスの管理、ジョブの管理 42～44回 ネットワークの設定と管理、ネットワークを利用するコマンド 45～47回 ログとログファイル、システム状態の確認コマンド 48～50回 サーバー構築演習1 51～53回 サーバー構築演習2 54～56回 サーバー構築演習3 57～59回 Linux Essentials対策 60～62回 LinuC 101対策 63～64回 まとめ、定期試験について	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	情報セキュリティ I (738)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	荒井 豊文				実 務 経 験 内 容	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	-	2	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
情報セキュリティについての定義を明確にし、リスクコントロールの手法として様々なセキュリティ対策があることを理解したうえで技術対策の基盤となる暗号技術、認証技術、PKI、セキュリティプロトコルについて学ぶ。これらの技術がどのような脅威に対して有効か判断できるようになることを目標とする。						
授 業 形 態	講 義	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。実習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、学生イントラネットにあるものを利用する。実習内容（結果）はすべて提出する。提出方法については、その都度説明する。						
教 科 書 材	セキュリティ技術の教科書					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 1～ 5回 情報セキュリティとサイバーセキュリティ 情報セキュリティの概要や、脅威・リスク等について学習 6～ 9回 問題演習 10～14回 情報セキュリティに対する脅威 脅威や攻撃者の概要について学習 15～16回 問題演習 【後期】 17～22回 暗号記述・認証技術・PKI セキュリティ技術のPKIと取り上げ、その技術的根拠・実例について学習 23～24回 問題演習 25～30回 通信の制御とサイバー攻撃対策技術 IDS, IPS, FW等の役割やその限界などについて学習 31～32回 問題演習	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点（出席および受講の状況）を20点の配点とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	クラウド活用（977）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	中島 修志				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次	
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
システムの稼働環境はこれまでのサーバを購入して環境を構築するオンプレミスから、サーバ台数やネットワーク構成を需要に応じて臨機応変に変更できるクラウドに急速に変化しつつある。本科目ではオンプレミスとクラウドの違いを理解するとともに、Amazon Web Service を利用し、クラウド上に実際に環境を構築する演習を通じて、即戦力を養う。						
授 業 形 態	実 習	教 室	353教室	補 助 教 員	なし	
授業はノートパソコンを利用した実習形態ではあるが、実習に先立ち講義も実施する。講義・実習に用いる教材はAWSの公式のAWS Academy内のコースであるAWS Academy Cloud Foundationsコースを利用する。						
教 科 書 材	Web教材（AWS Academy Cloud Foundations）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2 単位時間／回		
【前期】 1 ～ 2回 コースの紹介 3 ～ 6回 クラウドのコンセプト 7 ～ 12回 AWSグローバルインフラストラクチャの概要 13 ～ 18回 クラウドのセキュリティ 19 ～ 24回 ネットワークとコンテンツ配信 25 ～ 30回 コンピューティング 31 ～ 32回 演習課題 【後期】 31 ～ 36回 ストレージ 37 ～ 42回 データベース 43 ～ 48回 クラウドアーキテクチャ 49 ～ 54回 自動スケーリングとモニタリング 55 ～ 60回 クラウドエコノミクスと請求 61 ～ 64回 AWS認定所得に向けての補足		

評価コード	13	
評 価 方 法	・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報システム科

科 目 名	資格対策（700）				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担 当 教 員	中島 修志				実 務 経 験 内 容	
	週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次		
	-	4	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来のITエンジニアとして、ITの知識・技術の習得は必須である。本授業では、目標となる資格試験の合格を目指すための講座、問題演習を行う。 国家資格だけでなく、IT企業から一定の評価があるベンダー試験についても受験対策を行う。						
授 業 形 態	演 習	教 室	353教室	補 助 教 員	渡邊 学・田中 実・森 久・高山 健	
授業は問題演習や模擬試験での学習を主とするが、適宜ノート型パソコンを使った実習も行う。 個々の学生が目標とする資格毎にコースを作り、コースごとに授業を実施する。						
教 科 書 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容		
●授業時間：2単位時間／回 【前期】 ●FE・科目A対策 1回～36回 基本情報技術者試験 科目A免除試験 問題演習 ●FE・科目B対策 1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、問題演習 ●AP・午前対策 1回～36回 応用情報技術者試験 午前問題に関する講義、問題演習 ●AP・午後対策 1回～36回 データベース、セキュリティ、組み込みに関する講義、問題演習 ●AP(ネットワーク)対策 1回～36回 応用情報技術者試験のネットワーク分野に関する講義、問題演習 ●OracleMaster SilverSQL対策 1回～36回 資格試験対策テキストをベースに出題範囲の分野の解説、問題演習 ●Oracle Master BronzeDBA対策 1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習 ●CCNA対策 1回＝36回 ネットワークに関する講義、問題演習、シミュレータを使った演習 【後期】 ●FE対策 1回～36回 アルゴリズム、セキュリティに関する講義、過去問題演習 ●Linux Essentials対策 1回～36回 試験学習サイトの問題を活用した講義、問題演習 ●Oracle Master BronzeDBA対策 1回～36回 仮想環境を用いた講義、問題演習		

評価コード	11	
評 価 方 法	・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	